

6.

若手研究者の育成

専任・特任教員担当講義

2021 年度修士論文要旨

▶ 2021 年度 IGS 専任・特任教員担当講義

《人間文化創成科学研究科博士後期課程ジェンダー学際研究専攻》

申琪榮（教授）

比較政治論（前期不定期）

比較政治論演習（後期不定期）

ジェンダー学際研究報告（基礎）（通年不定期）

ジェンダー学際研究報告（発展）（通年不定期）

ジェンダー学際研究論文指導（通年不定期）

大橋史恵（准教授）

ジェンダー政治経済学（前期）

ジェンダー政治経済学演習（後期）

ジェンダー学際研究報告（基礎）（通年不定期）

《人間文化創成科学研究科博士前期課程ジェンダー社会科学専攻》

申琪榮（教授）

フェミニズム理論の争点（前期）

国際社会ジェンダー論演習（前期）

ジェンダー立法過程論（後期）

特別研究（専攻必修）（通年不定期）

大橋史恵（准教授）

ジェンダー基礎論（専攻必修）（前期）

ジェンダー社会経済学演習（後期）

特別研究（専攻必修）（通年不定期）

平野恵子（特任講師）

国際社会ジェンダー論（後期不定期）

※（本報告書 89～90 頁「AIT ワークショップ」参照）

《学部》

戸谷陽子（教授）

Summer Program in English I（前期集中）Gender Representation in Contemporary Japanese Culture

申琪榮（教授）

ジェンダー8 政治・政策とジェンダー（前期）

大橋史恵（准教授）

アジア社会とジェンダーII・文化変動論II（前期）

グローバル文化学総論（前期）

グローバル化と社会（後期）

グローバル文化学特論（後期）

卒業研究（通年不定期）

Summer Program in English I（前期集中）Gender, Sexuality and Migration in Japan

▶ 2021 年度大学院（人間文化創成科学研究科）

ジェンダー研究所はジェンダーの視点から学際的・国際的な研究を推進する次世代の研究者育成も行っている。IGS 所属教員の指導のもと、2021 年度は以下の院生が博士前期課程を修了した。

博士前期課程（ジェンダー社会科学専攻）修了者

【氏名】下川 自子

【指導教員】申 琪榮（IGS 教授）

【修論タイトル】配偶者暴力相談支援センターの相談機能に関する調査研究—東京都 23 区を例に—

【要旨】

本論文では、東京 23 区内にある配偶者暴力相談支援センターに、支援体制や機能、相談体制についてアンケート調査と相談員へのインタビューを実施した。相談員個人の力量に立脚する不安定な支援構造という実態と問題を明らかにするとともに、今後の包括的被害者支援体制の再構築に向けて、法律、心理や医療の専門家のチーム支援を取り入れるというひとつの展望を導き出した。

【氏名】町田 彩夏

【指導教員】申 琪榮（IGS 教授）

【修論タイトル】Twitter でジェンダー関連政策を発信する政治家が受けるネガティブな反応に関する分析——選択的夫婦別姓への賛成を例に——

【要旨】

本研究では、日本の国会議員がジェンダーに関連する政策、特に選択的夫婦別姓に対して Twitter 上で賛成の意を示したツイートをした際に、他の Twitter ユーザーからどのような反応を受けるのかを明らかにし、そこから得られた結果をもとに、Twitter というソーシャルメディアや、そこで発生する言説がどのような効果をもたらしているのかを考察した。加えて、これらのツールが、民主主義の発展に貢献するためには、どのような対策や仕組みづくりが必要なのかを論じた。

【氏名】今村 さくら

【指導教員】申 琪榮（IGS 教授）

【修論タイトル】日本のお笑い界における性差別の再生産メカニズム——バラエティー番組のコンテンツ分析と若手芸人へのインタビューから見えてきたもの——

【要旨】

本研究では、お笑い界で性差別的言動が看過され、繰り返されている原因を明らかにする。バラエティー番組「アメトーク！」のコンテンツ分析と、お笑い事務所に所属している若手芸人への半構造化インタビューを実施し、分析を行った。お笑い界の性差別問題はお笑い芸人の力だけで解決できるものではない。番組の制作側、お笑い芸人の事務所や養成所など多方面で、より実践的で効果的な対策を打ち出していくことが求められる。

【氏名】高橋 沙綾

【指導教員】申 琪榮（IGS 教授）

【修論タイトル】「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の制定・改正と政策ネットワーク

【要旨】

「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」（候補者均等法）がどのように制定・改正されたのかを、3つのアクター（超党派議員連盟 10 名、女性団体 3 名、専門家 1 名）へのインタビュー調査を通して、多角的に分析した。さらに候補者均等法の制定にいたる政策過程の分析を通じて、ジェンダー政策がどのように形成されるかに関する既存理論への示唆を得た。

【氏名】駒村 日向子

【指導教員】大橋 史恵 (IGS 准教授)

【修論タイトル】家庭空間における賃労働とジェンダー —— COVID-19 緊急事態宣言下での女性たちのテレワーク経験から ——

【要旨】

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の緊急事態宣言下にテレワークを経験した、東京圏在住の育児期の女性 (小学校低学年以下の子どもを持つフルタイム労働の女性) たちへの聞き取りをもとに、在宅形態での就労がはらむ問題を、ジェンダーの視点から実証的に分析した。家庭空間がペイドワーク・アンペイドワーク双方が入り混じる場となり、外部にケアを託すことができない場合には、在宅形態の労働をおこなうことはほぼ不可能であることがわかった。

【氏名】鈴木 七海

【指導教員】大橋 史恵 (IGS 准教授)

【修論タイトル】社会的再生産の危機と代理出産をめぐる考察 —— リプロダクティブ・ジャスティスの視点から ——

【要旨】

本研究は、代理出産の需要が発生する背景にある構造的な問題に接近するものである。資本主義はその発展において人間の社会的再生産を必要とする。社会的再生産のなかでも重要な要素が、生物学的再生産としての妊娠・出産である。産むこと／産ませることが、社会的再生産においてどのように位置づけられるのかを検討する。さらにリプロダクティブ・ジャスティスという視点から、代理出産に関わる産む主体や生まれる子どもたちにとっての「正義」をどうとらえるべきかを考察する。

● IGS 所属教員が副査を務めた 2021 年度博士前期課程修了者と論文タイトル

博士前期課程 (ジェンダー社会科学専攻) 修了者

【氏名】ルフバクシュ モナ

【副査】申 琪榮 (IGS 教授)

【修論タイトル】戦う女神たち—女性アイドルのエージェンシーとファン権力の相克に関する研究

【氏名】小口 藍子

【副査】大橋 史恵 (IGS 准教授)

【修論タイトル】現代日本の「男性の美容」を起点とする男性性理論の再検討：構造的男性性からパフォーマンスな男性性へ

【氏名】梁 せいよ

【副査】大橋 史恵 (IGS 准教授)

【修論タイトル】現代日本における「ジェンダーレス」概念の誕生と語用——権力をめぐる批判的検討——

● IGS 所属教員が副査を務めた 2021 年度博士後期課程修了者と論文タイトル

博士後期課程 (ジェンダー学際研究専攻) 学位取得者

【氏名】KAKIN OKSANA

【副査】申 琪榮 (IGS 教授)

【博論タイトル】「未熟さ」を愛でる —— アイドルのファン文化研究を起点とする日本文化論の再考 ——